

平成19年7月10日

「藤岡信勝先生の名誉を守る会」設立のごあいさつ

藤岡信勝先生の名誉を守る会 代表 川又 和敏

有識者各位

拝啓

雨模様が続いておりますが、有識者各位におかれましてはますますの御活躍、まことに慶賀に存じます。

さて皆様もご交流を持たれておられる拓殖大学教授、藤岡信勝先生が今般、高崎経済大学教授にして日本教育再生機構理事長の八木秀次氏を「名誉毀損」で東京地方裁判所に提訴されたことは、報道等でお気づきになられたことと拝察申し上げます。

各位もよくご存知のとおり藤岡先生は平成8年、西尾幹二先生と共に「新しい歴史教科書をつくる会」運動を起こし、左翼教員組合の階級闘争史観に基づく偏向的歴史教育とそれに迎合する在来教科書の是正に立ち上がり、今日まで一貫してその運動展開の先頭に立ってきました。日本人としての歴史観、文化観、国家観形成のあり方を問うこの運動は社会に大きな一石を投じ、政治家、教育行政関係者、教科書出版会社などに次第に覚醒の輪を拡げつつあります。

しかし、極めて遺憾なことに、一昨年、それまで確実に支持者を拡げつつあった「新しい歴史教科書をつくる会」組織を篡奪しようとする集団が形成され、会設立来の中心的指導者である西尾、藤岡両先生を極めて卑劣な手段で排斥しようという画策が始まりました。

八木氏は当時会長として、そのような篡奪工作を積極的に阻止しなければならない立場にあったにもかかわらず、その指導に消極的であったばかりか、途中からその篡奪工作に積極的に加わるようになりました。これに前後して八木氏はまた理事会に諮らずに事務局員多数を引き連れて、そもそも歴史教科書における近隣諸国への加害記述の誇大化の元を成した中国国務当局を電撃的に訪問するなど、企図不明瞭な行動も取りました。これら、会長としての自覚に欠ける無責任な行動を以て会長を解任された以後、八木氏はそれに反省することなく、新聞記事への虚偽情報の提供など、想像を絶する攪乱

工作の中心となって、いわゆる「内紛」を演出しました。

今日マスコミ等が喧伝し、「新しい歴史教科書」発行元である扶桑社までが「つくる会忌避」の理由にする、いわゆる「内紛」の実態は1年以上が経過して私たち「つくる会」会員にも、より明瞭に見えるようになりました。

これはすなわち、会の運営理念を巡っての意見対立では決してなく、一方的に仕掛けられた「会組織篡奪戦争」であったのです。そこで周到に進められた西尾、藤岡両先生追放工作の一環として八木氏が流布し、吹聴したのが、今回藤岡氏が「名誉毀損」で裁判所に提訴した「公安調査庁情報による藤岡氏の日本共産党党員歴新事実」なるデマゴギーでした。

八木氏等はこうした攪乱工作に熱中するあまり、結局、その工作の証拠を自ら露呈してしまい、理事会でその釈明を求められたが答えることが能わず、あわただしく退会しました。そして「安倍首相のブレーンといわれる」という新聞、雑誌のプロフィール紹介を背景に「日本教育再生機構」を立ち上げ、自ら理事長に就任したことは各位にも充分ご承知のことと思います。

この間の事態推移の中で、看過出来ないことは二つあると思います。

一つは藤岡先生の日本共産党在党歴に関して全く事実と異なる虚偽情報を「公安調査庁情報」と権威づけて吹聴、流布した八木氏の悪辣性です。もとより日本共産党は今日公認された政党であり、それと関係を持つこと自体は巷間の評価もさまざまでしょう。

しかし、それを「公安調査庁情報」とすることによって、何か秘密めかしく、また危険な人土のように脚色することは、明らかに、それによって対象人物を貶めようという意図に基づくものです。こういう陰険な手段が認められるのなら、自分に不都合な相手はすべて「警察情報」「公安情報」の流布によって社会的に葬り去れることになります。ましてや八木氏のように大学教授、教育団体理事長、放送局番組審議委員という立場にあり、新聞等によって首相のブレーンにまで擬せられる人物がそれを積極的に用いて「当然」とするならば、今日の電子情報社会は「警察情報」「公安情報」によって操作される極めて危険な状況にたちまち突入するでしょう。まさに情報テロリズムともいうべき社会危機の萌芽で

す。

このように、おのが目的を達するには手段を選ばない、危険極まりない謀略主義に対しては健全な自由主義社会を志向するわれわれは、重大な脅威としてこれに立ち向かわなければなりません。

看過できない二つ目の点は八木氏らはこのように自ら企図した攪乱工作の結果を「つくる会の内紛」という表現で宣伝し、扶桑社や多数の報道機関にそれを信じ込ませ、全国の多数の会員がすべてボランティアで心血を注ぎ築き上げてきた「新しい歴史教科書をつくる会」の名誉を地に落としたことです。さらには扶桑社が「内紛」を理由に事実上「新しい歴史教科書をつくる会」を否定するまでの状況を造り出しました。八木氏は虚偽の「公安調査庁情報」を流布することで10年に亘って育まれてきた偏向歴史教科書是正運動を大きく妨害したのです。

われわれは西尾、藤岡両先生の呼びかけに日本の歴史への愛情を呼び覚まされ、この10年間、各自は微力ながらも両先生とともにまったくの手作りでこの運動を育ててきた市井の無名人です。しかし、今般の藤岡先生の提訴は一人藤岡先生の問題に留まらず、日本の社会の今後にとって重大な問題が問われている、極めて深刻なものと受け止め、諸手を挙げて藤岡先生を支援していくことを決意、表明いたします。この支援の心をかたちに致すべく全国有志と相談し「藤岡信勝先生の名誉を守る会」を急遽設立いたしました。

どうか有識者みなさまにおかれましても「公安調査庁情報」などという怪情報によって社会の安寧が攪乱される危険に思いを致していただき、われわれとともに藤岡信勝先生の必死の提訴に御理解、さらには積極的な御支援、御声援を賜りますよう、衷心よりお願い申し上げます。

末筆ながら各位のますますの御活躍をお祈り申し上げます。

敬具